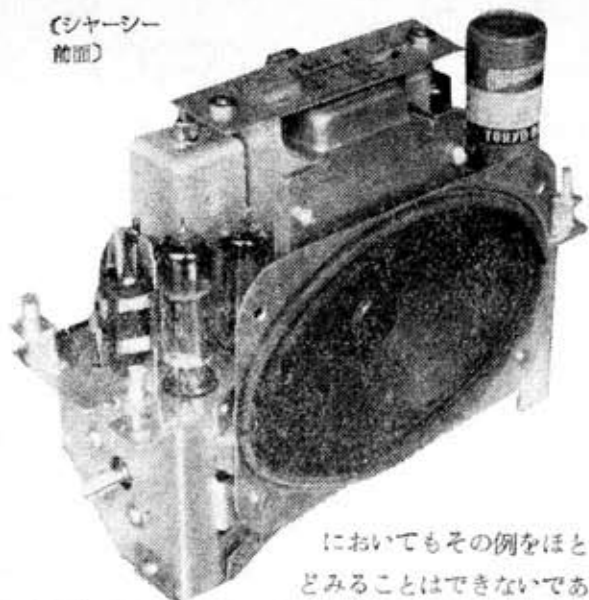


(シャーシー
前面)



においてもその例をほとんどみることはいえないであろう。このため表裏いづれからでも聴取が可能で、部屋の中央において、一家団欒用としてきくには実に好適で、さらにその点を考慮して、ケースが236mm×171mm×100mmという小型で、重量も2kgというポータブル並みのものであるから、移動性は十分に持っているわけだ。

美麗なプラスチック製で、色調は前面と後面の斜線格子はアイボリーで、横と天井はチョコレート色であるから、近代味豊かなもので、和洋室にむくといえよう。

つまみの位置も、両面スタイルの点から横についており正面から向つて右が同調用、左が電源スイッチ兼音量調整器となつており、ダイヤルランプの照明の方法も面白い。

写真でわかるように、このような小型化を狙つたために配置も実によく考慮してある。ラジオの部分品の中で、一番容積も大きく、そして、

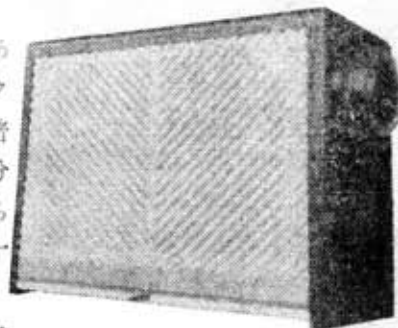
その配置も定石となつている電源トランスをスピーカー上部にだかせていることは、このトランスが、ヒーター電圧用のためにあると考えるとよいようなセミ・トランスレス式であるため、比較的小さくできた結果であろう。出力トランスはシャーシー内に収められている。パイロット・ランプは放熱と、無駄な照明をさけるために、ランプ全体をゴムでつつみ、ダイヤルつまみに相当する角度に2mm角の小窓をあけている。小型セットのときおろそかにできない照明ランプからの発熱の対策方法である。

シャーシー下部はファイバー紙でつつみ、このファイバー紙に高性能のファイブ・コア・アンテナをつけており、ことさらにアンテナ線とアース線を必要としないで、

サービス・エリア局はもちろんのこと、相当遠方の局まで受信可能であつて、5 MA-21 型の感度は130 db 程度あると思われる。

回路は、6BE6, 6BD6, 6AV6, 6AR5, 5M-K9 のミニアチニア管を使った標準5球スーパーで、スピーカーには磁束密度の強いフィールドを用いており、6×4 吋の楕円型コーンである。試聴した結果では、普通音量以下であつたら十分な音質であつたが、パワーをだすと、若干こもつてくるようであり、日本間でいえば8 畳位の部屋以下で愉しむに適しているようである。

このセットの特長に、消費電力の少いこともある。入力50~60 サイクルで100V, 25VA で普通の5球スーパーの半分であり、節電の意味からいっても必要にして且十分である。

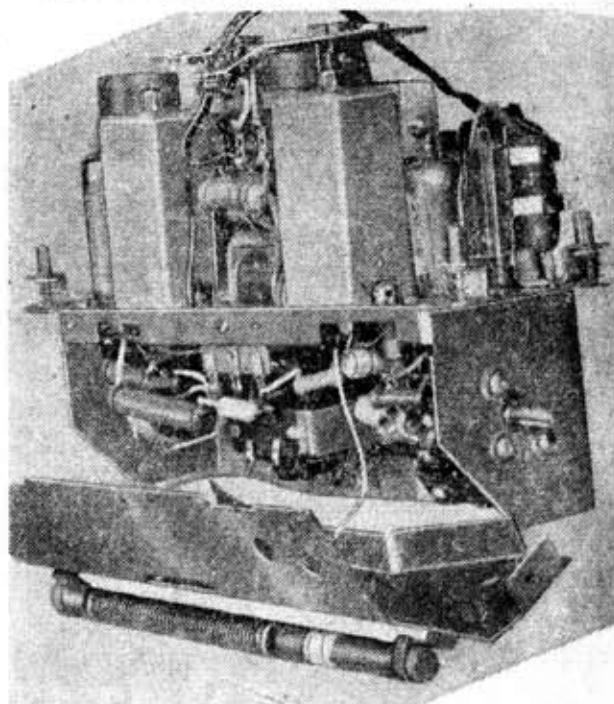


(キャビネット後部)

6AR5 はカソード・コンデンサーをはずして、電流負帰還を採用しており、電源がオート式であるので、0.1μ のコンデンサーでフローティングしてあるから、感電する心配はない。

全体的にはよくまとまつたセットで、きまつたキャビネット、デザインに対抗するセットとして、今後どれほど進出するか愉しめる。

このような新しい型のものを、大膽にとりあげるということは、なかなかできないことであるが、東芝があえて、これを採用し、発表したのは、これからのセット・メーカーとしての歩むべき方向を得たと同時に、これからの発展に寄与したこと大なるものであろう。



(シャーシー後面)